

スペースデブリの除去 と国際環境法

Removal of Space Debris and International
Environmental Law

上智大学 堀口健夫

スペースデブリ問題と国際宇宙法

Space Debris and international Space Law

- ▶ 宇宙条約（1966年）等の宇宙関係諸条約は、デブリ問題に関する具体的規定を欠いており、せいぜい宇宙条約第9条等の適用可能性を指摘しうるにとどまる
- ▶ その後は、IADCやCOPOLUSのデブリ低減ガイドライン等、拘束力のない国際的なガイドライン等の策定や、各国による自発的な実施に特徴

国際宇宙法と国際環境法の交錯

Intersection of International Environmental Law (IEL) and International Space Law in Tackling the Issues of Space Debris

- ▶ 環境問題としてのスペースデブリ問題
- ▶ 宇宙条約等も自己完結的な制度であることを意図していない。
宇宙条約3条：「国連憲章を含む国際法に従って」
- ▶ 国際法の統合性への配慮
「持続可能な発展 (Sustainable Development)」

国際環境法の適用可能性

Applicability of International Environmental Law to the space debris issues

■ 基本的な論点

- ① 一般国際法上確立している国際環境法規範が存在するのか？
- ② それらを宇宙空間の保全に適用しうるか？
- ③ 宇宙関係諸条約以上の規律をもたらすのか？

一般国際法上の環境法規範（1）

Environmental Norms of General International Law 1

- ▶ 国家の権利義務の直接の根拠となる規範
環境損害防止義務（防止原則）
手続的義務（影響評価、監視、事前協議等） 等
- ▶ 既存の法の解釈等を指針づける規範
持続可能な発展
予防原則 等

一般国際法上の環境法規範（2）

Environmental Norms of General International Law 2

- ▶ 環境損害防止義務（防止原則） Preventive Principle

“The existence of the general obligation of States to ensure that activities within their jurisdiction and control respect the environment of other States or of areas beyond national control is now part of the corpus of international law relating to the environment.”

（国際司法裁判所・核兵器使用勧告的意見（1996年））

一般国際法上の環境法規範（3）

Environmental Norms of General International Law 3

▶ 予防原則 Precautionary Principle or Approach

“In order to protect the environment, the precautionary approach shall be widely applied by States according to their capabilities. Where there are threats of serious or irreversible damage, lack of full scientific certainty shall not be used as a reason for postponing cost-effective measures to prevent environmental degradation.”

(環境と開発に関するリオ宣言（1992年）第15原則)

一般国際環境法規範の宇宙活動への適用可能性

Applicability of General International Environmental Law to Space Activities

▶ 「環境」とは何か？

「まだ生まれていない世代を含む人類の生活空間、生活の質、そして他ならぬその健康である。」

（核兵器使用勧告的意見（1996年））

▶ 「損害」・「リスク」概念

→ 宇宙活動・宇宙空間の特質は国際環境法規範の適用を必ずしも妨げない。

デブリ除去と防止原則

Removal of Space Debris and the Preventive Principle

- ▶ 防止原則は、既に宇宙条約9条に反映しているといいうる。或いはそうでないとしても、一般国際法としての防止原則が適用されうる。
- ▶ 少なくとも自国の管轄・管理下にある機能停止した衛星等について、他の宇宙物体に損害を与えないよう確保する一般的義務が国家にはあるといえる。

環境分野における損害防止義務の 発展（１）

continuous nature of the obligation to prevent
environmental harm

- ▶ 環境損害防止義務は継続的な性格を有する
→機能を終えた後や事故発生後も射程

“This requirement ... stems from the assumption that the obligation of due diligence , the core base of the provisions intended to prevent significant transboundary harm... is of continuous nature affecting every stage related to the conduct of the activity”

(国際法委員会・防止条文草案注釈)

環境分野における損害防止義務の 発展（２）

An Obligation of Due Diligence in IEL

- ▶ 「相当の注意」義務：合理的な手段を尽くす義務
- ▶ 「相当の注意」概念の要素の特定
 - ・ 不確実なリスクの考慮（←予防原則）
 - ・ 関連する知見や技術・実践の考慮
 - ・ 国内法の立法・執行
 - ・ 手続的義務の実施

環境分野における損害防止義務の 発展（3）

Development of the Procedural Obligations in IEL

■ 一定の手続の実施自体の義務化

環境影響評価／継続的監視／情報提供・協議等

“ ...once operations have started and, where necessary, throughout the life of the project, continuous monitoring of its effects on the environment shall be undertaken.”

（国際司法裁判所・パルプ工場事件判決（2010年））



宇宙空間・活動の特性と防止原則

Some Issues related to Application of the Preventive Principle to Space Activities

- ▶ 能力の問題
 - ・ 監視能力／除去技術
 - ・ 措置の費用対効果
- ▶ 安全保障の問題
 - ・ 軍事衛星への適用可能性
 - ・ 機微情報の扱い

結語

Concluding Remarks

- ▶ 国際環境法上の防止原則・予防原則の適用、或いはそれらに照らした宇宙条約9条の解釈より、自国の管轄・管理下にあるスペースデブリの除去を義務付けられる場合がある。
- ▶ 国際環境法における「相当の注意」概念や手続的義務の発展にも考慮がなされるべきである。
- ▶ 国際宇宙法と国際環境法との統合が、より一層課題となってきたのではないか。



ご清聴有難うございました。

上智大学 堀口健夫